

テーブルウェアの加飾技術の開発

1. はじめに

皿や茶碗、カップ&ソーサーなどのテーブルウェアは、数ある陶磁器製品の中でも最も生活に密着したものです。そのため、手に馴染む形状、スタッキング性（積み重ねやすさ）、軽さ、清潔感のある色彩・絵柄、飽きのこないデザインなど、毎日使う道具としての「実用性」が重視されてきました。しかしこれは、デザインの自由さを制限するものでもあります。

これまでデザインにはデザイン運動と呼ばれるいくつかの大きな波がありました。アーツ&クラフツ運動やアール・ヌーボーやアール・デコ、バウハウスやモダニズムなどが挙げられます。これらデザインの大きな波でさえ、テーブルウェアのデザインに落とし込むためには、実用性を考慮して絵柄のアレンジや、リムの加飾程度に留められたと想像されます。

そこで本研究では、実用性の高い普段使いのものだけでなく、結婚式の披露宴やホテルでの食事、食品や食材のディスプレイなどに用いるプロユース向けのテーブルウェアも視野に、これまで述べた様々なデザイン運動の中からポスト・モダンを採用し、デザイン設計を行いました。

2. ポスト・モダンのデザイン

ポスト・モダンは合理性や機能性を追求したモダニズムに対する反発から生まれた思想で、1980年代に世界中を席卷しました。日本での1980年代は、いわゆるバブル経済の時代でした。昨今、テレビで1980年代を強調したCMが流れたり、バブルな話題を提供するタレントがもてはやされるのは、景気回復と言われながらも実感できない閉塞感と、合理性・機能性の追求に対するある種の疲労感があると考えます。こうした社会背景の一致から、新規なテーブルウェアのデザイン開発に、ポスト・モダンのデザイン思想を採用しました。

ポスト・モダンのデザインは、1980年代に建築デザインやインテリアデザインの分野で盛んに採り上げられ、過剰な装飾性や、量産品では

ない一品制作的なハンドクラフト感が特徴です。そのため、実用性を重視するテーブルウェアに適用された例は余りありません。

3. デザイン設計

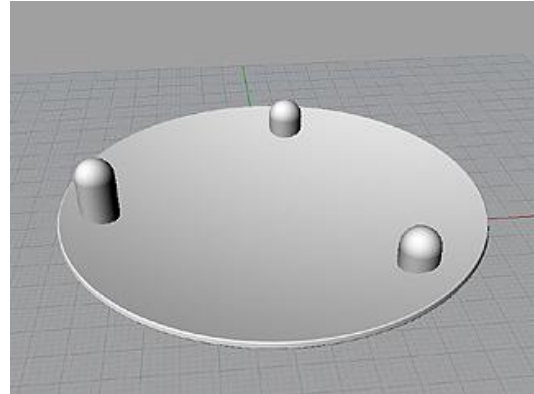


図1 デザイン設計例①

まず、普段使いのテーブルウェアとして、ポスト・モダンのデザイン要素を控えめに採用した例が図1です。しかし、スタッキング性に課題があります。

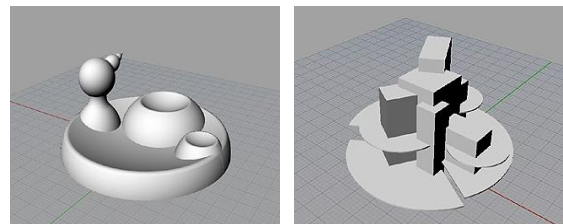


図2 デザイン設計例②（左）、③（右）

図2はプロユースを想定してポスト・モダンのデザイン要素を多く取り入れて設計したもので、ポスト・モダンの建築デザインを参考にしてあります。設計には3Dモデリングソフトを用いており、デザインデータは3Dプリンタ出力用のSTLデータに変換が可能です。

4. まとめ

ポスト・モダンのデザインをテーブルウェアに適用することで、これまでにないユニークなデザイン開発ができました。

こうしたデザインのテーブルウェアは、これまでのローラーマシンなどで量産されるものとは全く趣旨が異なる一品制作のものであると強く認識する必要があります。



常滑窯業技術センター 材料開発室 山田圭 (0596-35-5151)

研究テーマ：陶磁器デザイン、成形技術、加飾技術

担当分野：陶磁器デザイン、工業デザイン、グラフィックデザイン